

銀賞 西牟田純基君

北海道名寄産業高等学校建築システム科

おもちこみち～地元農家がデザインし続ける名寄の入口～

道北の名寄市に活気を呼び戻す新たな空間の提案である。地元農家が作る餅米による数種類のお餅を食べながらイベントが開催できる建築物であり、これにより街の再生を狙っているユニークな案である。北国らしく雪の結晶をデザインコードにY字型に建物が分節してやがて六角形となりそれが広がって行き各種類の餅を売るゾーンになっている。切妻型の断面はヒューマンスケールであり屋台をも彷彿させ更に物見塔までもが同じモチーフでデザインされており一貫性の中でありながらバリエーションを持ち合わせている。内部は作者によると「もちもちとした素材」と表記があり更に興味がわく。実際にこの様な空間が名寄市に出来てほしいとさえ思った秀作である。

(文責：小西 彦仁)

(文責：中山 眞琴)

